

作業用手袋認定マークについて



標準規格適合品とは
お客様の健康保護と安全のために、手袋の構造別に策定した日本グローブ工業会標準規格に適合したものに、標準適合品として認定マークを表示しています。

1.作業用手袋認定マークとは。

お客様の健康保護と安全のために、手袋の構造別に策定した日本グローブ工業会標準規格に適合したものに、「標準規格適合品」として認定マークを表示しています。

工業会標準規格の「作業用手袋認定基準」は、作業用手袋の一般要求事項であるサイズ・寸法・無害性および器用さについて定めています。また、手袋の着用者が遭遇する危険度のレベル(程度)によって、カテゴリー分けした「作業用手袋の認定マークの運用規定」を制定しています。

《手袋の種類》 着用者が遭遇する手袋の危険度のレベル(程度)によって下記に分類。

種類	危険度のレベル(程度)
カテゴリー 1 Cat.1	保護目的の危険度が明らかに低いことを使用者自身が判断でき、また、作業者の身体に危険が及ばないと製造者がみなした手袋
カテゴリー 2 Cat.2	物理的な性能を付与された中程度の危険度が想定され、主に機械的な強度試験（耐摩耗性試験、耐切創性試験、耐引裂性試験、耐突刺性試験）において作業者の安全性を確保できることを想定した手袋

特に、物理的な性能試験を必要とするカテゴリー2(Cat.2)の一般作業用手袋については、機械的強度(耐摩耗性・耐切創性・耐引裂性・耐突刺性)の基準がその手袋の性能を表す重要な指標となっており、それらの試験を第三者機関で実施し、手袋の性能を明確にしています。

2.安全性における品質基準について。

下記規格を参考に、「日本グローブ工業会標準試験方法(JRV-017:2022 作業用手袋の機械的性能試験方法, JRV-018:2024 作業用手袋の一般要件)」を制定し、手袋の種類として、消費者が遭遇する危険度を、Cat.1(カテゴリー1)、Cat.2(カテゴリー2)として区分し、「作業用手袋の認定マーク運用規定(2024 年)」を定めています。

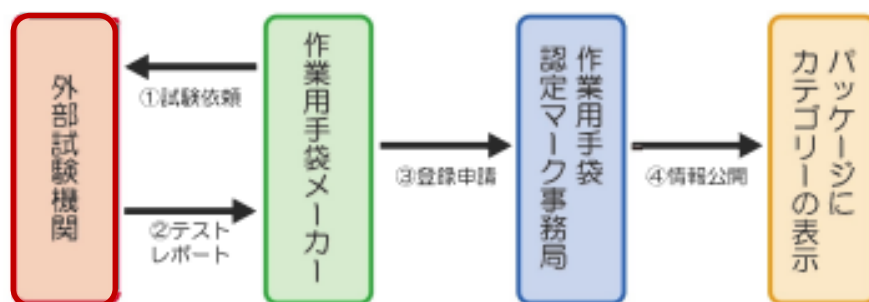
《引用規格》

◆作業用手袋の機械的性能試験 ISO 23388:2018

◆作業用手袋の一般要件 ISO 21420:2020

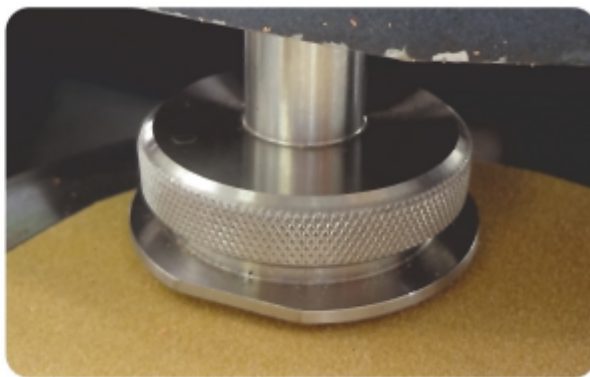
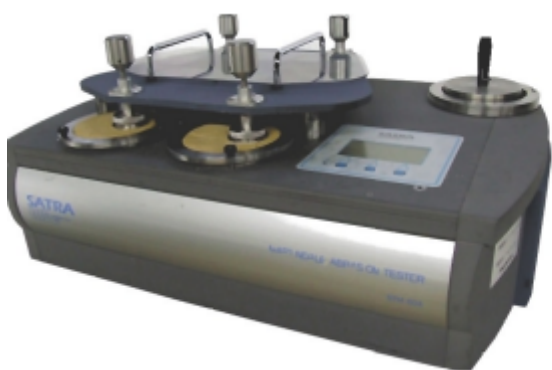
3.標準規格適合品の試験方法とその登録手順

作業用認定マークを表示する製品は、第三者機関で性能評価を実施した結果をもとに、作業用認定マーク事務局へ自主登録申請を行っています。



◆耐摩耗性試験（Abrasion Test）

試験片は手袋掌部から切り取り、一定の圧力下で周期的な平面運動をさせ、試験片が貫通するまでの回数を測定する。

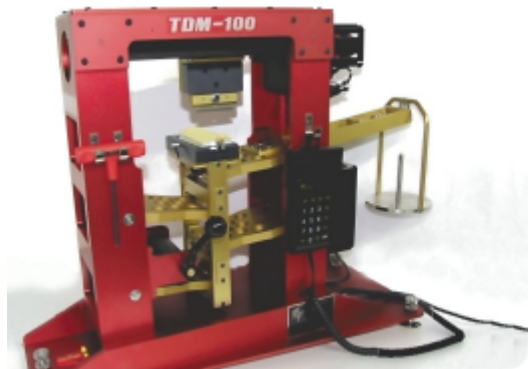


◆耐切創性試験（Cut Resistance）

【A 方法】

試験用刃物に種々の大きさの力を加えて、30～50mm 動かして試験片を切断する。

20mm 長のストロークをカットするのに必要とする切創力として表す。



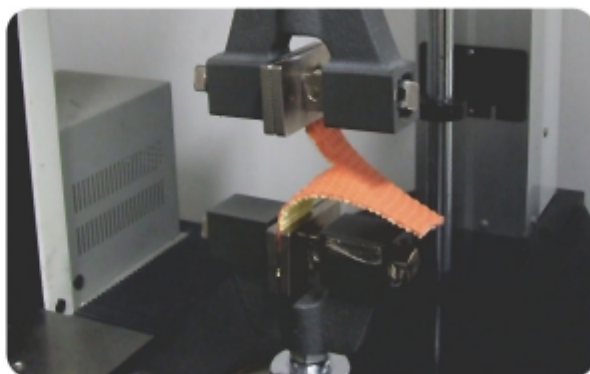
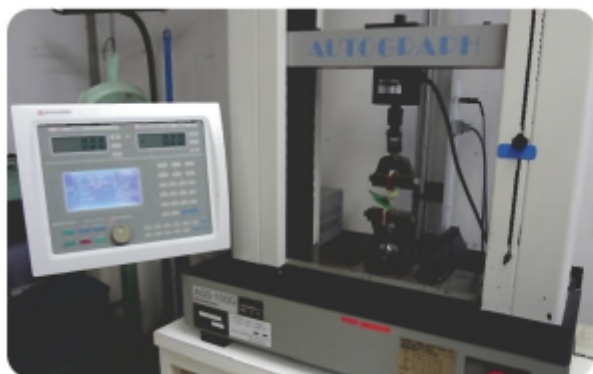
【B 方法】

5N の加重の下で往復運動する円形の刃で、手袋掌部から切り取った試験片を水平運動させてカットしていく。
厚地のテント地を同様にテストして出た数値と比較して指標とする。



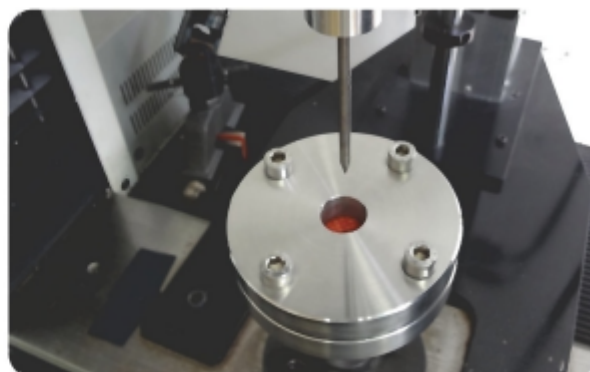
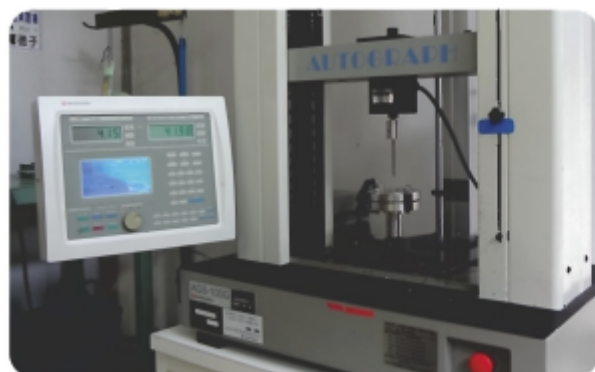
◆耐引裂性試験（Tearing Test）

手袋から長方形の試験片を切り取り、その試験片の半分まで裂け目を入れる。
そしてその試験片の両端を持って引き裂くときの力を測定する。



◆耐突刺性試験（Puncture Test）

定義された寸法の鉄鋼針によって、手袋の掌部から切り取られた試験片に穴を開けるために必要な力を測定する。



2024 年 5 月
日本グローブ工業会